あまずっぱかんきつ新聞

南丘小 5-3 山口杏奈

かんきつ類の歴史

かんきつ類が初めて、日本に渡来してきたのは中国からで奈良時代から平安時代初期にゆずなどのかんきつが送られてきました。江戸時代から明治中期まで紀州みかんが主流でしたが、その後現在みかんの代表である温州みかんがさいばいされるようになりました。また温州みかんの収かく時期とバトンタッチするように、年明けから5月にかけて登場する中晩柑(ちゅうばんかん)も「伊予柑」や「しらぬい」などたくさんの種類が開発され続けています。

かんきつ類のいろいろ

不知火(しらぬい)(デコポン)
「清見」と「ポンカン」のハーフで皮が厚いが、果肉がやわらかくて、とても甘い。

清見
ミカンとオレンジのハーフで日本で育成された最初のタンゴール。硬い皮と、うす皮を持ち、果汁たっぷり。

タンゴールとは…
ミカンとオレンジの交雑種。

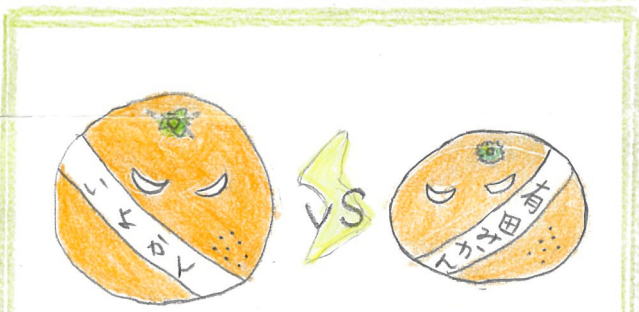
ユズ
消費量、生産量が日本最大。果汁が少なく、皮を日本料理の香りづけによく使われる。

ブラッドオレンジ
オレンジの一種で名前のとおり、だん面が血のような色になっている。生食の他にジュースなどによく使われる。

イヨカン
かんきつの中で、みかんに続き生産量が多い。皮が濃いオレンジ色で甘さとすっぱさのバランスが良い果物。

ナツミカン
日本原産の初夏に楽しめる、柑橘類。ナツダイダイやナツカンともよばれる。

永遠のライバル!? 和歌山県 vs 愛媛県



和歌山

「有田みかん」が有名でみかんの収かく量20年連続全国一位の「みかん王国」とよばれる高い技術を持つ農家(生産者)とよばれる。ゆらい性が大きい。雨に強い品種がある。有田みかんのさいばいは、450年の歴史がある。江戸では高価だったみかんを船で運び大きな財を成した。

愛媛

令和三年では温州みかん全国二位、中晩柑類一位でかんきつ類全体では第一位の「かんきつ王国」。中晩柑の生産が多く、清見・せとか・紅まどんなどが40種類以上の品種を出荷している。ゆるきゃら「みきゃん」、みかんジュースが出る、じゃ口などが有名。

和歌山県も愛媛県もかんきつ類をたくさん生産していて、大切に育てている。消費量、生産量の減少が全国的な課題。気候の変動や、担い手不足など共通のなやみが多い。

～栄養たっぷりかんきつ類～

かんきつ類の酸味には、ビタミンCだけでなく、ビタミンCの吸収を助けるビタミンPも豊富に含まれています。また老化や病気の原因とされる活性酸素をとりのぞくことに役立つといわれています。めんえき力を強化する働きや血圧を下げるという効果もあります。逆に、かんきつ類を食べすぎると手のひらや足のうらが黄色くなる「柑皮症(かんぴしょう)」になることがあります。

甘い柑橘ベスト3

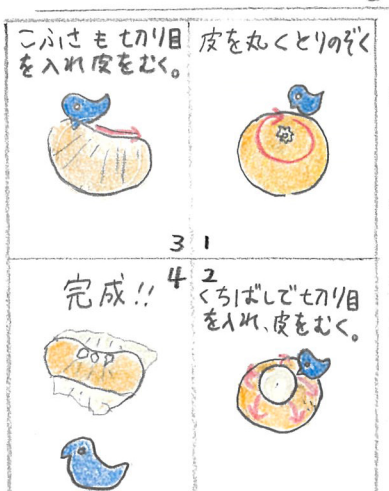
1位「甘平(かんぺい)」
名前に「甘」とつくほど、とても甘い。歯ごたえがあり八朔に似た食感。

2位「せとか」
果汁が多く、酸味が少なくて甘い。若干値段が高く、「高級柑橘」。

3位「蔵出しみかん」
みかんを木箱に入れ蔵にねかせ2月あたりから、出荷する。そうすると、酸味がぬけ甘くなる。

知ってる? 皮むきピヨちゃん

いよかんや甘夏などの厚い皮をむくとき、めんどくさいなと思ったことはありませんか? そんなときは、プラスチック製の鳥が便利!!



感想

私のおじいちゃんが愛媛県宇和島市出身で私もおさないころから、柑橘が大好きだったので柑橘類についてかくことにしました。もともと柑橘類には興味があったけど調べてみて、もと柑橘類が好きになりました。